

参天製薬株式会社 決算説明会

2019年度 連結業績概要 2020年度 連結業績予想



2020年5月11日

代表取締役社長兼 CEO

谷内 樹生

常務執行役員 経営管理担当兼 CFO兼 財務・管理本部長

越路 和朗

執行役員 中国R&Dスーパーバイザー

森島 健司

将来見通しに関する注意事項

- 本発表において提供される資料ならびに情報は、いわゆる「見通し情報」(forward-looking statements)を含みます。これら見通しを実現できるかどうかは様々なリスクや不確実性などに左右されます。従って、実際の業績はこれらの見通しと大きく異なる結果となりうることをご承知おき下さい。
- 日本ならびにその他各国政府による医療保険制度や薬価等の医療行政に関する規制が変更された場合や、金利、為替の変動により、業績や財政状態に影響を受ける可能性があります。
- 新薬の研究開発から承認・発売まで非常に長期間を要し、開発中止、承認申請後の不許可など不確実性を多く含みます。新製品に関わる見通しは、他社との開発・販売提携等を前提とするものが含まれており、こうした提携の成否は当社の業績や財務状況に影響を与える可能性があります。
- 現在発売している主要製品や将来発売が予定されている大型新薬が、万が一特許失効、製品の欠陥、予期せぬ副作用などの要因により、販売中止となったり、売上が大幅に減少した場合、業績や財政状態に大きな影響を及ぼします。また、当社が販売している製品の多くは、他社から製造販売権、ならびに販売権を供与されていますが、契約期間満了後、契約条件の変更や、販売提携の解消などが起こった場合、業績に影響を及ぼします。
- 原材料の中には供給を特定の取引先に依存しているものがありますが、何らかの要因によりこうした原材料の供給が停止した場合や、これに起因して当社の製品の供給が滞った場合、業績に悪影響を及ぼす可能性があります。

参天製薬の基本理念・基本使命

<基本理念>

天機に参与する

中国の古典「中庸」の一節を参天が独自に解釈したもので、社名「参天」の由来でもあります。
自然の神秘を解明して人々の健康の増進に貢献するということを意味しています。

肝心な事は何かを深く考え、どうするか明確に決め、迅速に実行する。

<基本使命>

**「目」をはじめとする特定の専門分野に努力を傾注し、
これによって参天ならではの知恵と組織的能力を培い、
患者さんと患者さんを愛する人たちを中心として、
社会への寄与を行う。**

新型コロナウイルス感染症に関する参天グループの対応

眼科治療薬を世界中の患者さんに届けることを最優先に対応

早期に対応を開始し、非常事態でも安定的に事業を継続

【日本を含む世界各拠点における対策】

1. 製品の安定供給に関連する取り組み
2. ウイルス拡散防止に向けた取り組み
3. 眼科医療のイノベーションに向けた取り組み



役員人事

次期長期ビジョン達成に向け、4/1付でマネジメント体制を刷新

■ 監督と執行の分離によるガバナンス強化：CEO交代



代表取締役会長
黒川 明



代表取締役社長兼CEO
谷内 樹生

■ 執行体制の組織強化とグローバル化の加速：新執行役員に4名を登用



CIO*
原 実



製品開発本部長
ピーター・サルスティグ



北米事業統括
貝原 達也



中国事業統括
山田 貴之

*チーフ・インフォメーション・オフィサー

次期長期ビジョンを7月に発表予定



2030年にありたい姿：製薬の枠を超えて眼科医療の発展に貢献

2020年度の考え方（新型コロナウイルス感染症の影響）

活動や費用を抑制することで増益を目指す

来院患者の減少により、売上は一定のマイナス影響を受ける

経費削減や活動の自粛などにより増益へ

長期的な成長への投資を継続

**Topics : 中国
新型コロナウイルス感染症に伴う事業の現状**

新型コロナウイルス感染症に伴う中国事業の現状

2-3月にかけて医療体制も経済活動も停止

現在は徐々に回復しており、参天も順次活動を再開している

<p>医療活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 医療体制：70%程度の施設で外来及び手術が実施可能 外来患者：通常水準の50%程度まで回復 眼科手術：白内障手術も通常水準の20-50%程度まで回復
<p>自社の対応</p>	<ul style="list-style-type: none"> 生産：2/10から再稼働し現在は通常稼働。供給への影響なし 営業活動：4/1から各施設の状況に応じて訪問を再開 従業員：テレワークとオフィス勤務とを各自の状況に応じて選択

2019年度 連結決算概要

2019年度通期業績

国内・海外事業の成長により、増収・コア増益

コアベース

- 売上：全エリアの貢献により増収
- 営業利益
費用の見直しなどにより増益

(単位：億円)	2018年度		2019年度		対前期 増減率
	実績	(対売上収益 比率)	実績	(対売上収益 比率)	
売上収益	2,340		2,416		+3%
売上原価	908	39%	948	39%	+4%
売上総利益	1,433	61%	1,467	61%	+2%
販売管理費	713	30%	734	30%	+3%
研究開発費	238	10%	233	10%	-2%
コア営業利益	482	21%	500	21%	+4%
製品に係る無形資産償却費	70	3%	99	4%	+42%
その他の収益	40	2%	4	0%	-90%
その他の費用	2	0%	70	3%	--
営業利益(フルベース)	451	19%	335	14%	-26%
金融収益	9	0%	10	0%	+6%
金融費用	29	1%	24	1%	-17%
税引前当期利益	431	18%	321	13%	-26%
法人所得税費用	112	5%	104	4%	-7%
(負担税率)	25.9%		32.3%		
当期利益 (フルベース)	319	14%	217	9%	-32%
コア当期利益	361	15%	359	15%	-1%
USD (円)	110.82		108.81		
EUR (円)	128.38		120.80		
CNY (円)	16.52		15.64		

DE-128の償却開始による影響

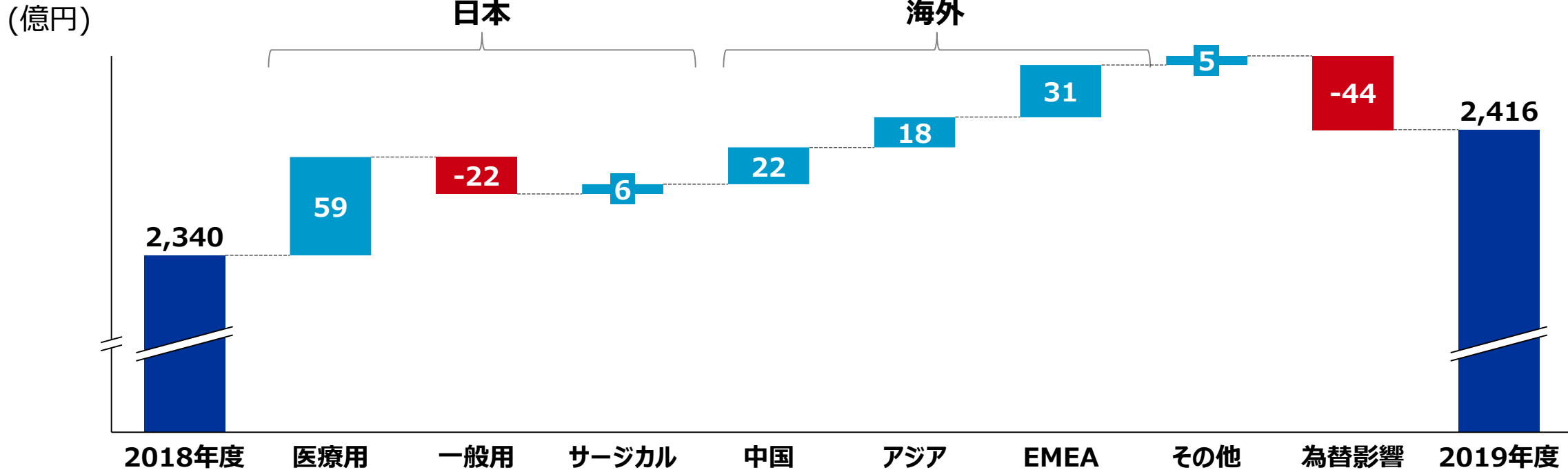
前期の旧本社・大阪工場の売却益の反動減など

DE-122の開発中止に伴う減損や
中国の合併事業における減損損失

中国の合併事業における減損損失、及び
InnFocus条件付対価に対する税効果未認識の
影響などにより税率が上昇

2019年度通期 売上収益（前期比）

日本の医療用医薬品や海外売上が好調に推移し、グループ売上の成長を牽引



日本事業

- ・ 医療用医薬品：アイリーア*やアレジオンLXなどの牽引により増収
- ・ 一般用医薬品：インバウンド需要の落ち込みにより減収
- ・ サージカル：新製品レンティス コンフォートの寄与もあり増収

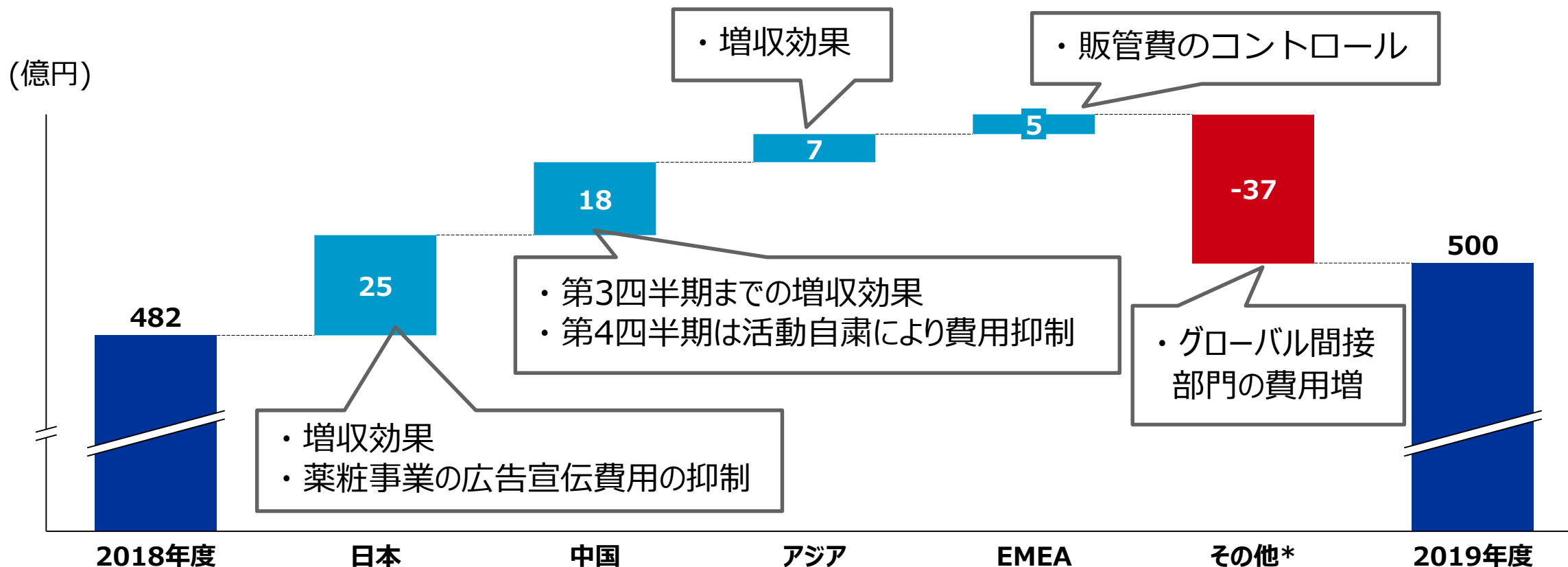
海外事業

- ・ 中国事業：第4四半期に新型コロナウイルス感染症によるマイナス影響があったものの、為替影響除くと+10%の増収（円建て+4%増収）
- ・ アジア事業：円建てで+6%増収（為替影響除き：+12%増収）（韓国 円建て：+4%、為替影響除き：+12%）
- ・ EMEA事業：為替影響除くと+8%の増収（円建て：+2%増収）

日本向けのその他
と米州を含む

2019年度通期 コア営業利益 (前期比・地域別)

増収効果と新型コロナウイルス感染症による自粛に伴う販売管理費の抑制などにより増益



	為替影響	中国	アジア	EMEA
実績				
2018年度		-6	-4	-6
2019年度		102	57	99

* グローバルにまたがる研究開発費や間接部門（人事・企画・製造など）の費用を含む

2020年度 通期業績予想

2020年度通期業績予想の前提

新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、効率的な経費運営により増益を目指す

■ 売上予想：地域ごとに正常化にばらつき

- 日本：上期に影響を織り込む
- 中国：おおむね回復を予想
- アジア：国ごとに状況は異なるが、緩やかに回復基調
- EMEA：第3四半期頃までの影響を織り込む

■ コア営業利益予想：上記に加え、以下の要素を織り込む

- 販売管理費：コスト削減や採用抑制、ニューノーマルに向けたデジタル投資
- 研究開発費：一部臨床試験が遅れるなどの影響

2020年度通期業績予想

効率的な経費運営により増益を目指す

(単位：億円)	2019年度		2020年度		対前期 増減率
	実績	(対売上収益 比率)	予想	(対売上収益 比率)	
売上収益	2,416		2,350		-3%
売上原価	948	39%	900	38%	-5%
売上総利益	1,467	61%	1,450	62%	-1%
販売管理費	734	30%	700	30%	-5%
研究開発費	233	10%	230	10%	-1%
コア営業利益	500	21%	520	22%	+4%
製品に係る無形資産償却費	99	4%	97	4%	-2%
その他の収益	4	0%	9	0%	+131%
その他の費用	70	3%	82	3%	+17%
営業利益(フルベース)	335	14%	350	15%	+4%
金融収益	10	0%	8	0%	-16%
金融費用	24	1%	10	0%	-58%
持分法による投資損失	--	--	8	0%	--
税引前当期利益	321	13%	340	14%	+6%
法人所得税費用	104	4%	110	5%	+6%
(負担税率)	32.3%		32.4%		
当期利益 (フルベース)	217	9%	230	10%	+6%
コア当期利益	359	15%	387	16%	+8%
USD (円)	108.81		110.00		
EUR (円)	120.80		120.00		
CNY (円)	15.64		15.00		

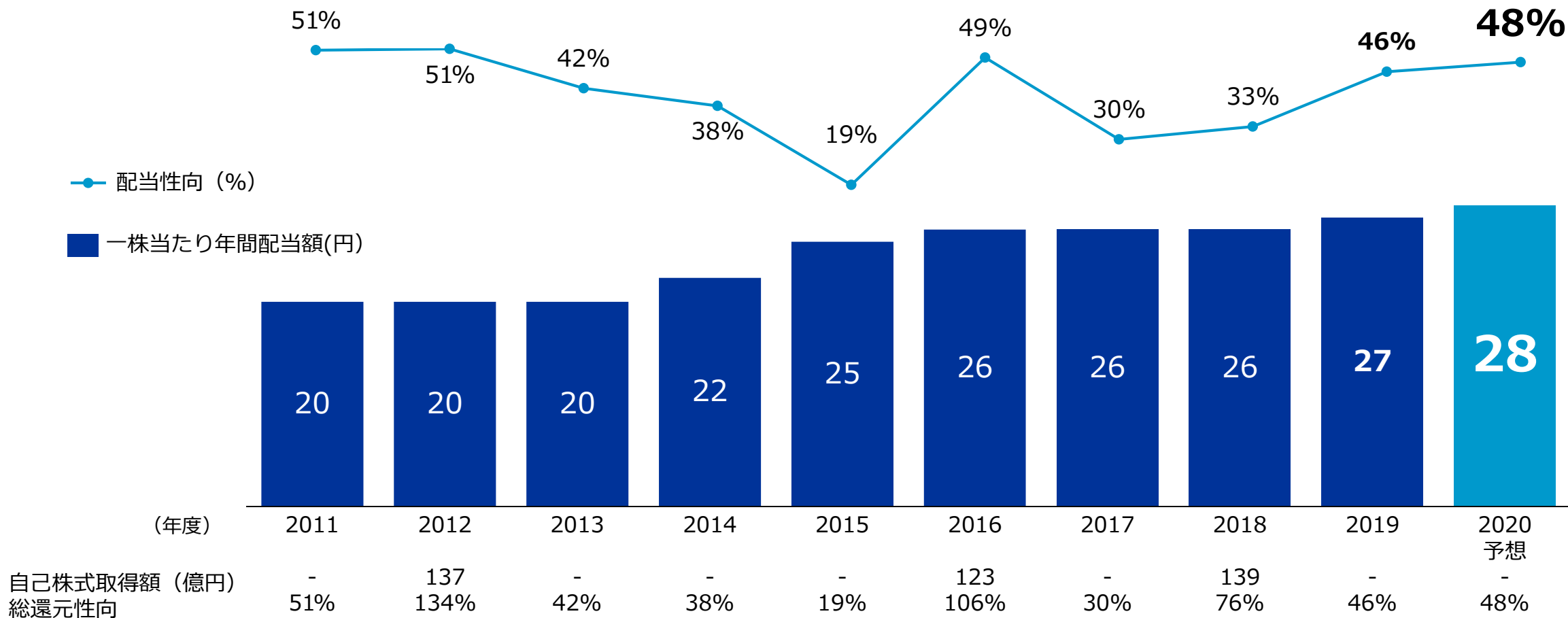
コアベース

- 売上：新型コロナウイルス感染症の影響を見込む
- 営業利益：事業活動の自粛や費用の見直しなどにより増益

InnFocus条件付対価評価替

配当

1株当たり年間28円（予想）とする



2020年度予想総還元性向については、自社株買いの可能性を含まず
2013年度まではJ-GAAP、2014年度以降はIFRSを基準に算出

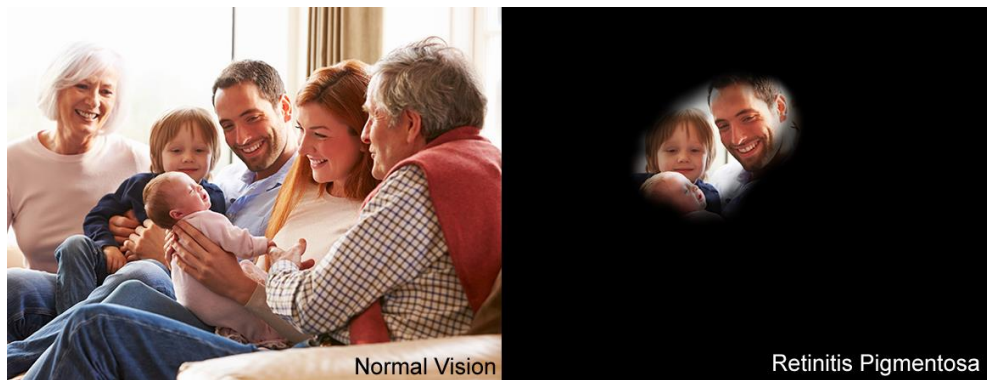
研究開発の現状

jCyte社提携：網膜色素変性症

遺伝性疾患であり、承認された治療法や有効な治療法が無い

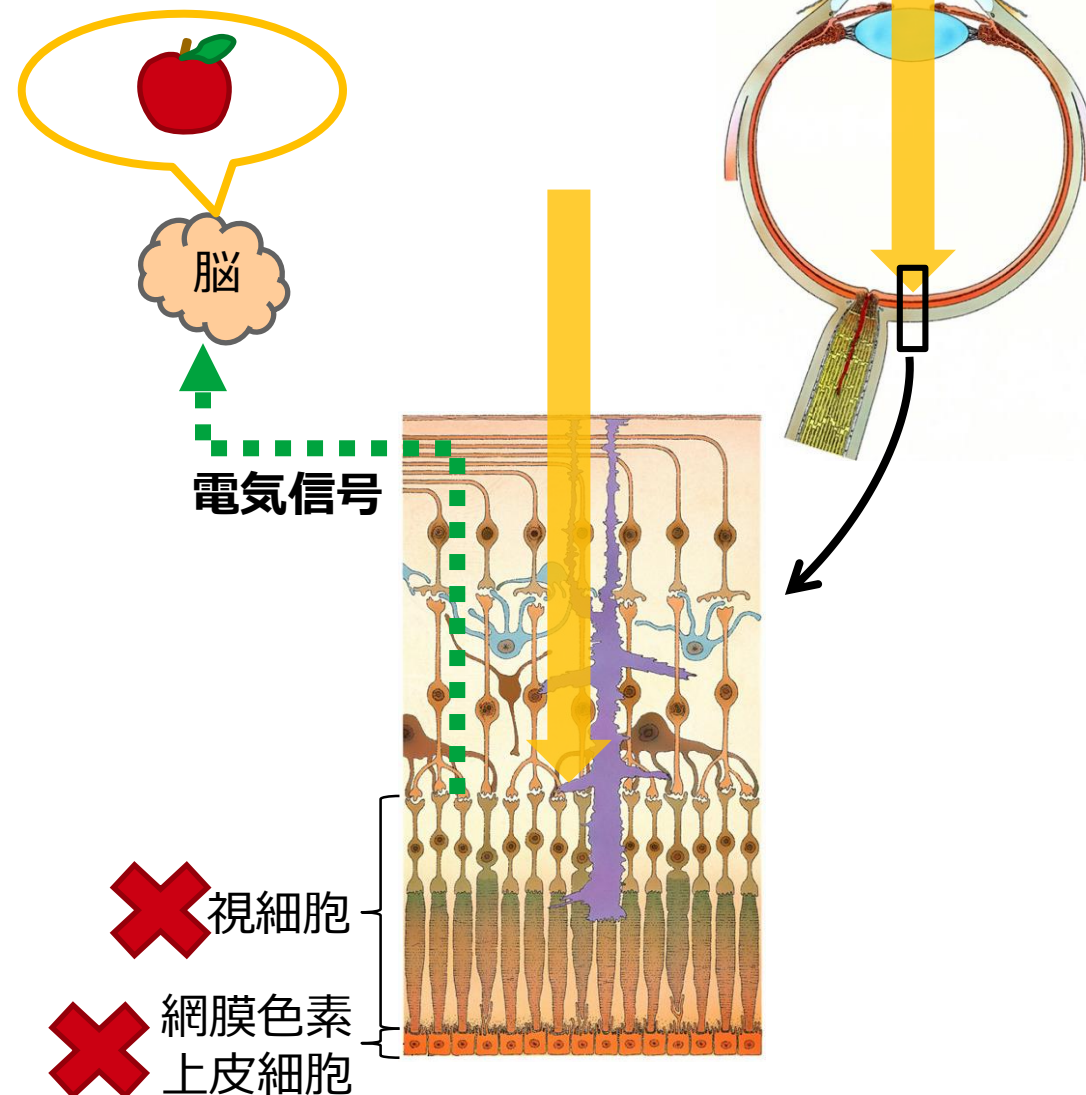
● 遺伝性網膜疾患

- ✓ 視細胞および網膜色素上皮細胞が変性
- ✓ 特徴的な症状は、夜盲、視野狭窄、視力低下



● 確立された治療法が無い

- **4,000**人に一人¹⁾
(日本では先天盲の第1位²⁾、視覚障がいの第2位³⁾)



jCyte社提携：網膜色素変性症に対する細胞治療プログラム

幅広く選択される初期治療となり得る可能性

● 投与経路

硝子体内注射

>網膜下投与と異なり、硝子体手術や網膜切開が不要

● 想定作用機序

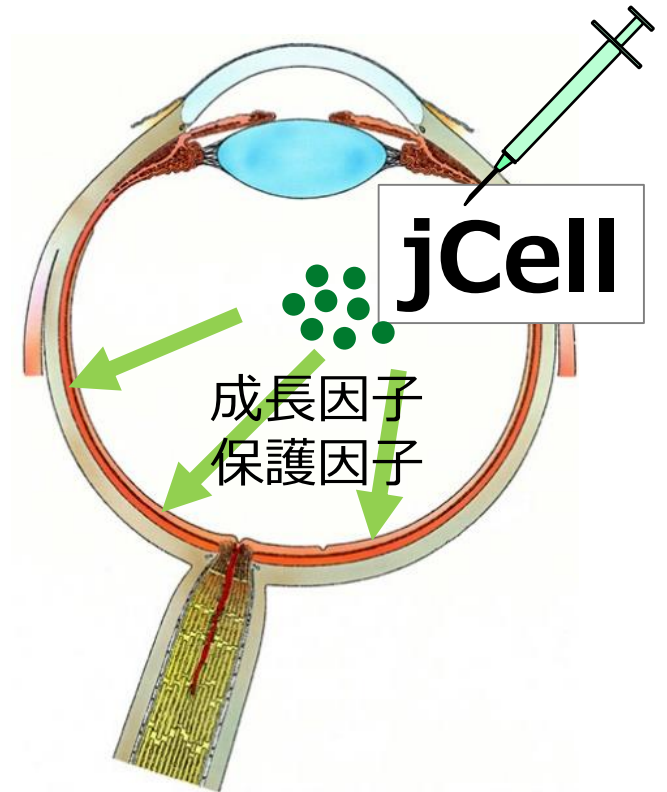
細胞成長因子、細胞保護因子を分泌

⇒網膜神経細胞のダメージを抑制

⇒病態進行を遅延

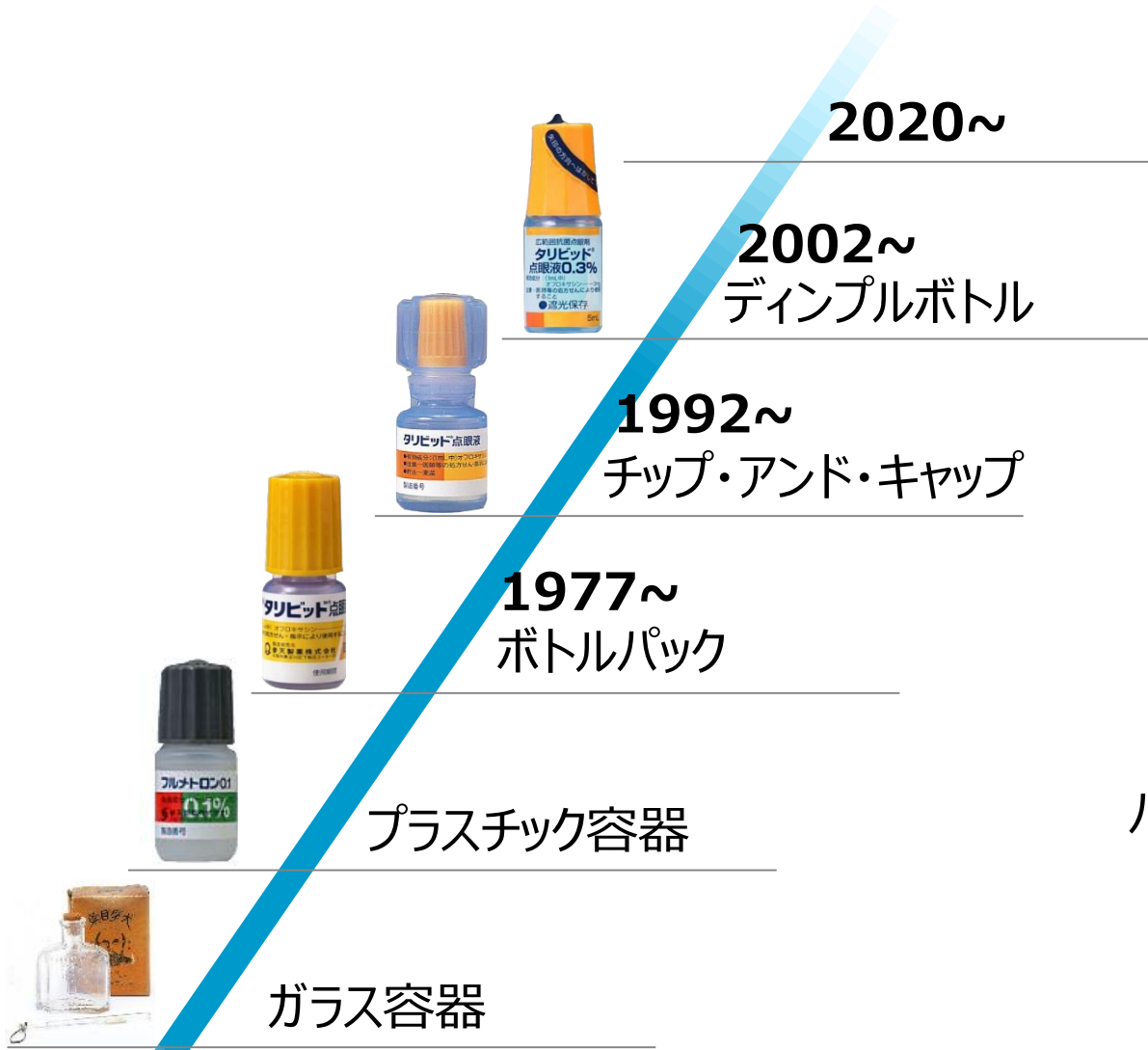
原因となる遺伝子は様々で、60種以上¹⁾

>原因遺伝子のタイプを問わず、適応できる



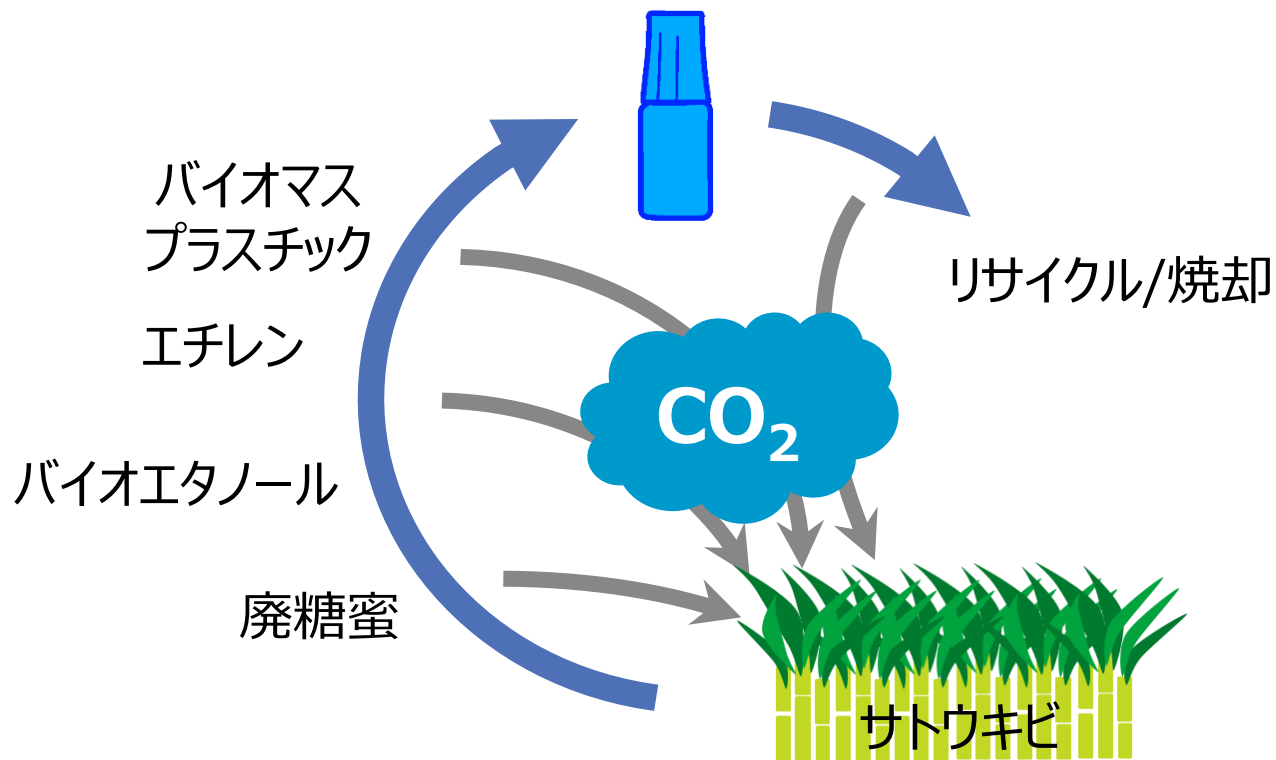
バイオマスプラスチック点眼容器の製品化

患者さん目線から“全ての人”目線へ



バイオマスプラスチック容器

- カーボンニュートラル
- 持続可能資源の利用



研究開発の現状

パイプライン/製品の開発状況①

(2020年4月現在)
下線部は更新情報。

	効能・効果	開発地域	開発状況
DE-111 タブコム / タブティコム タフルプロスト・ チモロールマレイン酸塩配合剤	緑内障・ 高眼圧症	中国	現状：P3 計画：2020年度 P3終了
		米国	現状：P3 計画：2020年度 P3終了
DE-117 エイベリス EP2受容体作動薬	緑内障・ 高眼圧症	日本	現状：上市
		アジア	現状：承認 計画：2020年度 上市
DE-126 FP/EP3受容体 デュアル作動薬	緑内障・ 高眼圧症	米国	現状：P2b（至適用量探索完了） 計画：2020年度 P2開始（探索的試験）
		日本	
DE-128 <i>PRESEFLO MicroShunt</i>	緑内障	米国	現状：P2/3 計画： <u>2020年度 市販前承認（PMA）の段階的申請完了、2020年度 上市</u>
		欧州	現状：上市
		アジア	現状： <u>申請（2020年3月韓国）</u> 計画：2020年度 承認
DE-130A Catioprost ラタノプロスト	緑内障・ 高眼圧症	欧州	現状：P3 計画：2021年度 P3終了
		アジア	

研究開発の現状

パイプライン/製品の開発状況②

(2020年4月現在)
下線部は更新情報。

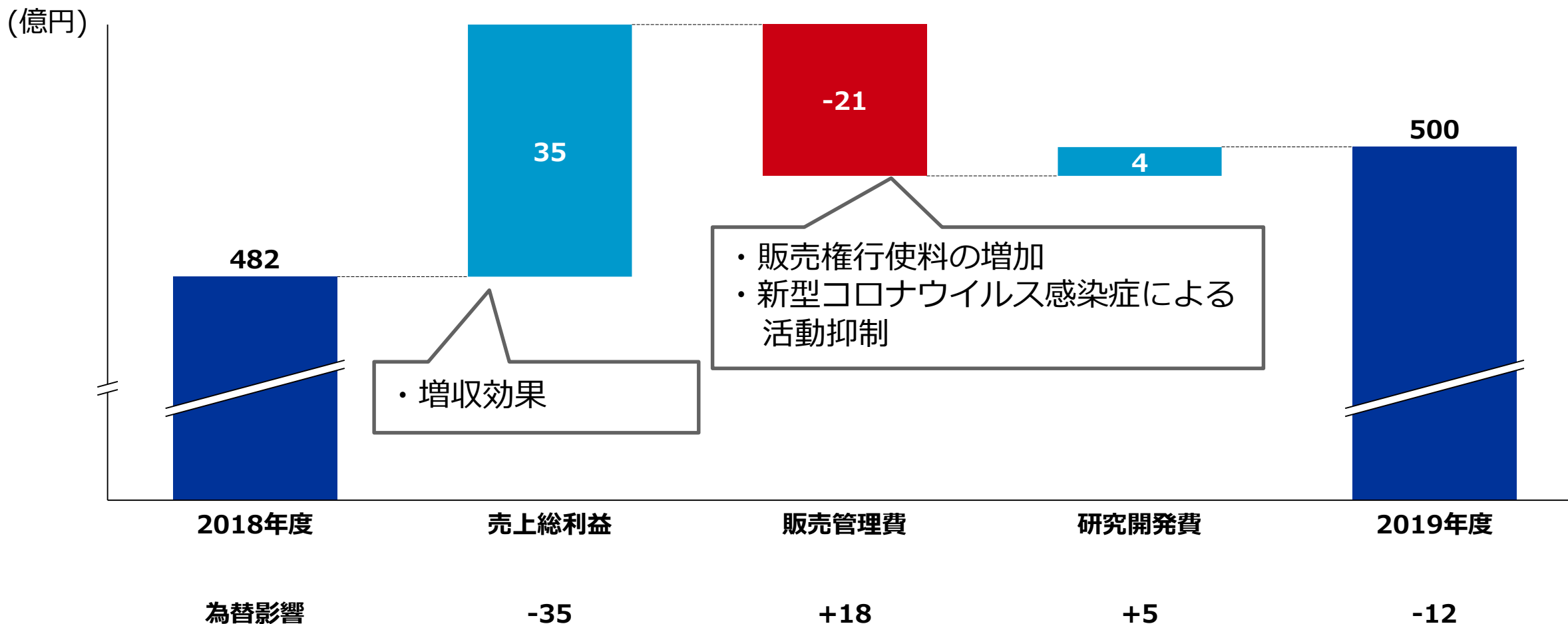
	効能・効果	開発地域	開発状況
DE-109 <small>シロリムス 硝子体内注射剤</small>	ぶどう膜炎	米国	現状：P3 計画：2022年度 P3終了
		日本	現状：P3
		欧州	現状：P3
		アジア	現状：申請
		欧州	現状：上市
DE-076C <small>Verkazia シクロスポリン</small>	春季カタル	アジア	現状：Ikervisとして春季カタル適応拡大承認
		その他	現状：上市（カナダ）
DE-114A <small>エピナスチン塩酸塩(高用量)</small>	アレルギー性 結膜炎	日本	現状：上市
DE-127 <small>アトロピン硫酸塩</small>	近視	日本	現状：P2/3 計画：2023年度 P2/3終了
		アジア	現状：P2（主要評価項目達成）
MD-16 <small>眼内レンズ</small>	白内障	日本	現状：承認 計画：2020年度 上市

DE-122: P2a試験の主要評価項目において期待した効果を示さなかったため、2020年3月に開発を中止

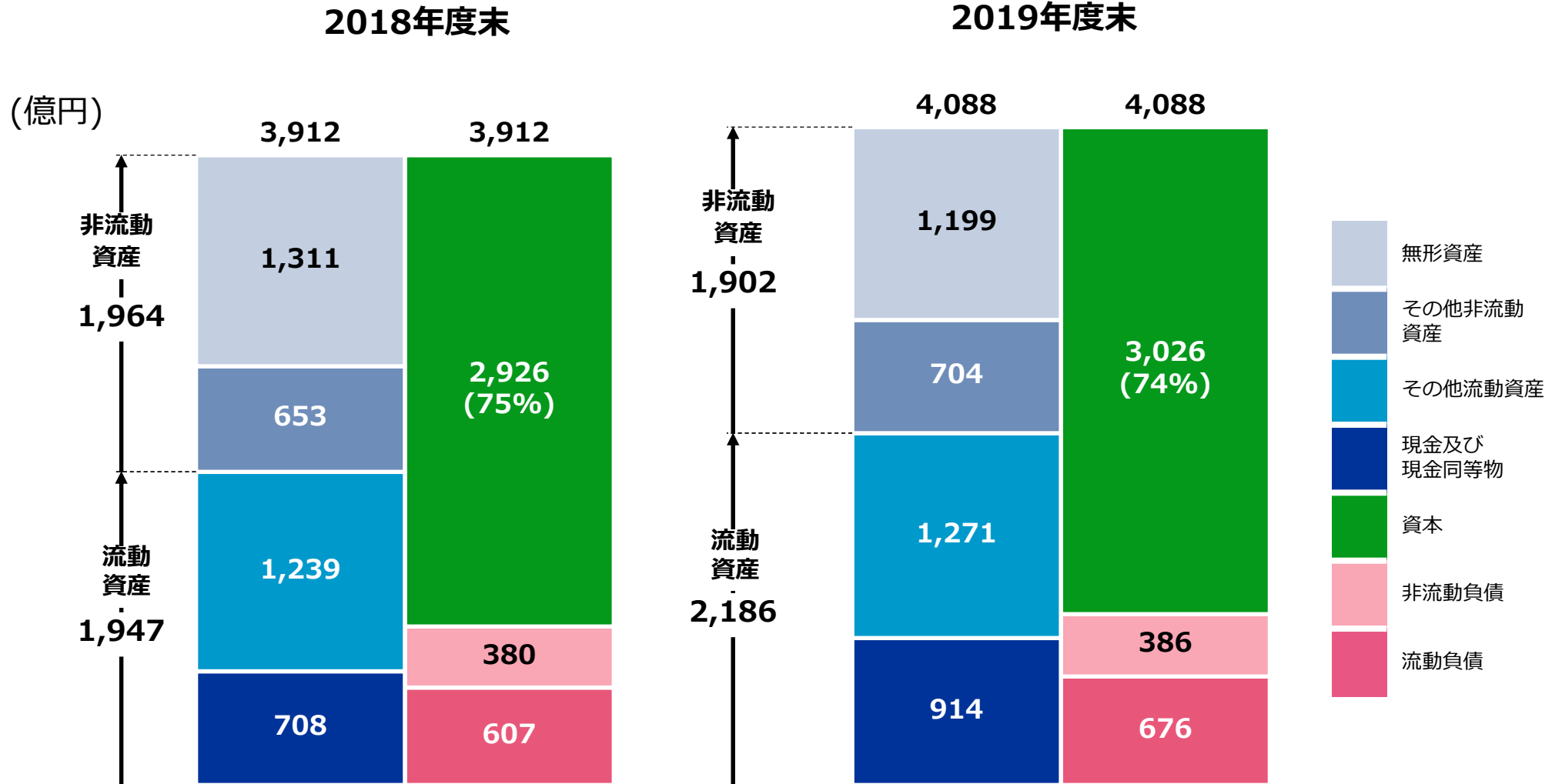
参考資料

2019年度通期 コア営業利益 (前期比・費用項目)

販管費の増加を増収効果で吸収し、増益

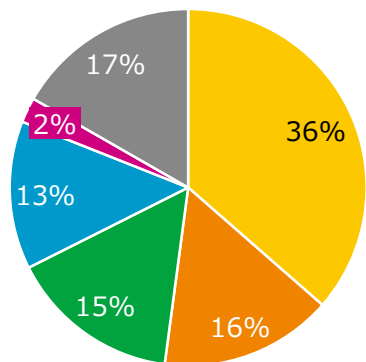


2019年度末 財政状態の推移



2019年度通期 仕向地域別売上収益

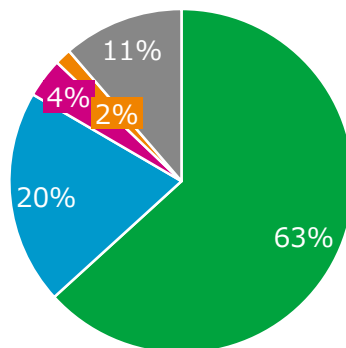
日本



アイリーア* 硝子体内注射液	601 億円
アレジオン点眼液 (LX含む)	249 億円
ジクアス点眼液	143 億円
その他	657 億円
合計	1,650 億円

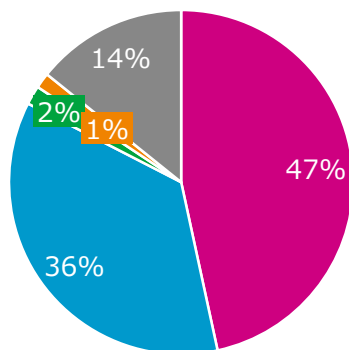
アイリーア*：製造販売元であるバイエル薬品（株）とのコ・プロモーション製品

EMEA



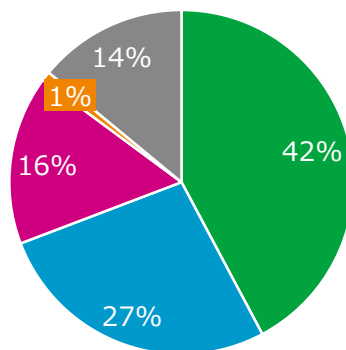
コンプト配合点眼液	93 億円
タブロス点眼液	65 億円
Ikervis	31 億円
その他	181 億円
合計	370 億円

中国



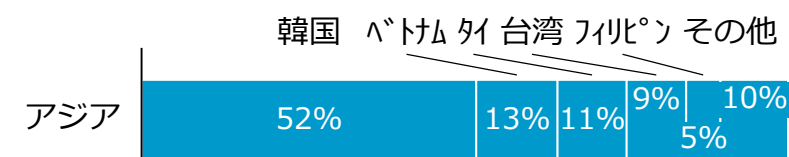
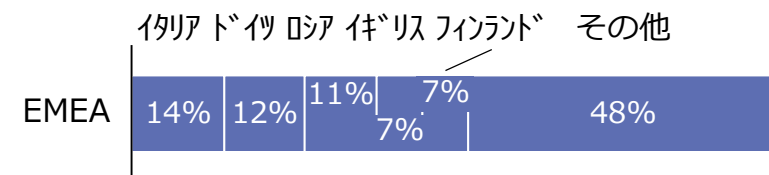
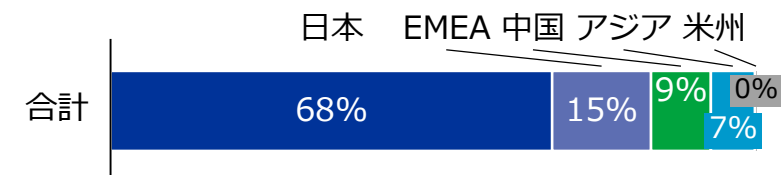
クラビット点眼液	95 億円
ヒアレイ点眼液	79 億円
フルメトロン点眼液	12 億円
その他	37 億円
合計	223 億円

アジア



コンプト配合点眼液	41 億円
ヒアレイ点眼液	19 億円
タブロス点眼液	19 億円
その他	86 億円
合計	165 億円

主要国・地域別売上比率



The logo for Santen features a large, stylized letter 'S' on the left. The 'S' is composed of two overlapping shapes: a light blue one on top and a dark blue one on the bottom. To the right of the 'S', the word 'Santen' is written in a bold, dark blue, sans-serif typeface.

A Clear Vision For Life™